

## 令和5年度 生活支援コーディネーター活動報告

生活支援コーディネーター	担当圏域
千寿の里西小田 浅川信之	瑞浪地区、明世地区
美濃陶生苑 片桐千絵	土岐地区、釜戸大湫地区、日吉地区
瑞浪市社会福祉協議会 岩島、足立	陶地区、稲津地区

各地域の状況及びニーズの把握、ネットワーク構築、研修など	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サロンへの訪問、民生委員・児童委員協議会への定期的な参加、認知症カフェへの参加(開催)を通じて、地域の状況及びニーズの把握に努めた。</li> <li>概ね月1回開催の生活支援コーディネーター会議を通じて、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、市と情報共有を行った。</li> <li>地域資源の見える化についての取り組みとして、地域資源マップ(サロン等通いの場一覧)の作成を行った。</li> <li>県主催の研修へ参加し、近隣市の状況収集を行うとともに、事業への理解を深めた。</li> </ul>
課題及び今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>サロン等集いの場の状況について引き続き把握していくとともに、地域ニーズと人材とのマッチングを行うことができるよう、新たな地域情報を収集していくことが必要である。</li> <li>生活支援コーディネーター会議を継続し、関係者との情報共有を行うとともに、地域の実情に合わせた支え合いの地域づくりに向けた事業の方向性について主体的に検討を続けていく。</li> </ul>

支え合いのススメ勉強会	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月27日に瑞浪市総合消防防災センター研修室にて開催。第1部34名、第2部28名が参加。</li> <li>第1部に市内の支え合い・助け合い活動の紹介を、第2部に商工課と連携し、移動手段についてワークショップを実施した。</li> <li>活動紹介では、「瑞浪を歩こう会」より、ウォーキングを通じた介護予防・仲間づくりについて、「稲津いなほ」より、定期的な集まりの場があることで、地域の人々の関わりが増えていく様子を生き生きと発表していただいた。</li> <li>「瑞浪を歩こう会」では、ゆるやかな集まりでの活動の良さを、「稲津いなほ」からは、ボランティア活動を行う上での留意点や楽しさ、やりがいをお話いただき、住民主体の活動への啓発を行うことができた。</li> <li>勉強会の参加者へ懇談会の案内を行い、参加を促した。</li> </ul>
課題及び今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>支え合い・助け合い活動について、広く市民の方に興味をもっていただくことが重要である。</li> <li>今後も住民による活動の情報収集を行い、活動事例を周知していきたい。</li> </ul>

支え合いのススメ懇談会	
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2層協議体設置に向けた前段階として、懇談会を実施。令和5年度は令和4年度に引き続き、8月、9月、12月の3回、懇談会を開催し、延べ28名が参加。</li> <li>8月は、グループごとに「あったらいい」と思うことや、活動への働きかけ方・協力者探しについて話し合った。人との繋がり、交流についての意見が多く上がった。</li> <li>9月は、「人との交流」をテーマに意見交換を行った。情報交換の場が大切である、人と人とのつながりが協議体へつながるのではないかと意見がある一方、当懇談会の目的が曖昧である、明確な目的が必要ではないかと意見もあった。</li> <li>12月は、千寿の里西小田のラウンジを会場に、「土岐町でサロンを立ち上げるとしたら」「人との交流」の二つのテーマに分かれ、茶話会の雰囲気でき意見を交わし地域への思いを交流した。</li> </ul>
課題及び今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民の方が主体となる第2層協議体の設置に向けての取り組みを継続することが最も重要であるが、一番の課題である。</li> <li>懇談会参加者は、以前から地域のためにと活動しており、自らが担い手となりご尽力されている。そのため、協議体という新しい視点への転換に戸惑いがあるように感じている。また、新たに役割が増える事への負担を感じている。</li> <li>第2層協議体の設置が最大の目的だが、結果を焦らず、継続的に懇談会を開催し情報交換を続けることで、「瑞浪市独自の協議体の形」が見えてくると考える。</li> </ul>